



2022年

みやま

第284号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

(ホームページ) <http://www.hirakawa.or.jp/>



令和4年1月7日 当院エントランスにて
前列左より 河合副院長、平川院長、酒井看護部長
後列左より 村田診療協力部次長、堀江事務部長

2022年、明けましておめでとうございます

院長 平川 淳一

昨年末には、オミクロン株の市中感染が確認されたことから、急に面会制限をさせていただきましたこと、お詫び申し上げます。お正月休みで、久しぶりに面会を楽しみにされていたご家族もあつたかと思えます。どうか、ご理解をいただきたいと思えます。

ワクチンさえ打ち終われば、終息すると信じていましたが、それはかないませんでした。しかし、100年前のスペイン風邪も2年で終息したようです。今年は、そろそろ終息すると思えます。コロナ明けで、やりたいことをいろいろ思い浮かべながら、楽しく今年はスタートしたいと思えます。

私は、ここ数年、院長としての起承転結の「結」に当たるシーズンの始まりと考えています。次の世代へのバトンタッチが円滑に進むよう努力したいと思えます。

2年も新型コロナウイルスと付き合ってくると、習慣化してしまっていることもあるので、終わりが近づくと何となくぎこちない感じもしますが、良い習慣は残して、不要な習慣は早く忘れるようにしたいと思えます。今年、1年が皆様にとって、少しでも良い年になりますよう心からお祈り申し上げます。

【表紙】院長挨拶 【P2~5】年頭挨拶

【P6】令和4年 平川病院 標語 ・奨励賞を受賞いたしました

 年頭挨拶 ～今年の抱負～ 

明けましておめでとうございます。

一昨年から始まったCOVID-19は今もって終息の気配を見せていません。我が国でも、昨年7月から8月の第5波と呼ばれる波に襲われ、医療機関も一時は大変な時期もありました。ちょうどそのころに東京オリンピックも開催され、私も林先生と一緒に医療班として参加しました。無観客試合という大会史上初めてのことになり、オリンピックという華やかな舞台を考えますと残念であり、また大会準備にかかわってきた方たちの無念はいかほどであったかはかり知れません。しかしこのような中でも競技は順調に進み、選手たちの素晴らしい技に感動を与えられた人も多いと思います。ある意味スポーツの素晴らしさが再認識され、またコロナ感染拡大阻止を意識しつつ、大きな問題もなく運営された歴史に残る大会であったように思いました。

本年はコロナ禍3年目を迎えます。オリンピックと同時進行で進められたワクチン接種はワクチン反対論などもある中で、予想を超えるスピードで進み、数か月で接種率は世界のトップレベルとなりました。9月からの感染者の激減はやはりワクチンによるところが大きいと思いますし、日本国民の賢明な判断を心強く感じました。

歴史上、インフルエンザなどのパンデミックはおおよそ2-3年で終息に向かってくるようです。今回もそうあってほしいと思いますが、当面はこれまでの対策を継続していかねばなりません。また3回目のワクチン接種も推進したいと思います。

コロナ疲れもあると思いますが、個々で心と身体のリフレッシュに努め頑張っていきましょう。本年もよろしくお願いいたします。

副院長 河合 伸

新年おめでとうございます。

我が家の年末の大掃除をしながら、インфекションコントロール（感染対策専門誌）に書かれていた「ベストを尽くした日本の医療～世界からみて～」を思い浮かべていました。ワクチン接種率が日本と同レベルのフランスや韓国などの国々では、昨年11月からのオミクロン株の流行によって、感染者が急増し相次いで、再度ロックダウンや規制強化がなされました。しかし日本はオリンピック終了後、10月末から新規感染者数は激減し、規制緩和がなされた後も、東京では連日30人前後の感染者数で推移しています。感染症はワクチンだけで予防するものではなく、「三密を避ける」「マスクを着用する」「手を洗う」などの感染対策を積み重ねたうえで、さらにワクチンも積み重ねることで有効な感染対策となります。その専門誌には、「世界で感染対策がうまくいっているのは日本だと言われている。その理由の一つに、日本の国民のコンプライアンスや衛生意識が非常に高いことと、そして医療現場の職員がきわめて真面目に感染対策を行っていることである。」と書かれていました。そんな国民性の違いは、国の大きさや気候・地形による環境や、宗教・これまでの国の歴史からくるものだろう。日本では大抵の家庭が、年末の大掃除をして新年を迎えるのが普通である。大掃除をしながら、感染者0の我が病院職員は、なんて真面目なんだろう。そういう、私も年末に恒例の大掃除をしており、真面目なのかも。この専門誌を読んで、日本人もまんざらではないなあ、そして病院はやれることは最大限のことをした。と、皆さんに感謝です。今年こそはコロナから解放されることを心から祈っております。

看護部長 酒井 科衛子

あけましておめでとうございます。

旧年中は色々な制限をうけるなか、本来の診療がおこなえるようご協力いただきありがとうございます。診察の中でも「コロナ」「ワクチン」という言葉が多くきかれ、「大丈夫ですよ」と確認されることも多く、改めて冷静に医療者が対応することが大切であると実感しました。患者さん、家族の病気に対する不安だけでなく、生活面の不安軽減の一助となるべく努めていきたいと思えます。今年も宜しくお願いいたします。



医局長 伊坂 洋子

明けましておめでとうございます

昨年は、新型コロナウイルスに対するワクチン接種が進み、コロナも終息に向かうと思っておりましたが、デルタ株、オミクロン株などの変異株が出現し、コロナとの戦いが未だに続いております。このような状況下で、私ども歯科室では、今まで以上に感染に対する環境を整えてまいりました。感染にはコロナだけではなく、これから流行すると思われるノロウイルスやインフルエンザウイルスなども含まれます。感染対策には万全を尽くしておりますので、どうぞご安心して診療にお越しください。歯科スタッフ一同、笑顔でお迎えいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



歯科医師 伊藤 光代

明けましておめでとうございます。

昨年4月から平川病院に勤務させて頂き少しずつ当院の雰囲気馴染ませて頂き感謝しております。

昨年もまた新型コロナウイルスに振り回された一年でありましたが、職員それぞれのしっかりとした感染対策の継続と共に、2回のワクチン接種を受けた事もあり、当院からは一人も感染者を出すことなく一年を過ごすことが出来ました。

今年の抱負として一つは、職員が3回目のワクチン接種を受けると共に、引き続きしっかりと感染対策を行い、患者さんやそのご家族に引き続き安心して頂けるように取り組みを継続していくこと、もう一点は、部や課、科を超えて、ディスカッションが出来る環境造りに取り組むと共に、職員それぞれがお互いに思いやりの気持ちをもった職場になれるよう努めて参りたいと考えております。本年もよろしくお願い致します。



事務部 部長 堀江 順

あけましておめでとうございます。

一昨年より世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るっており、日本国内では感染は減少したものの世界では再び感染者が増加している状態が続いています。日本と世界を比べると日本人はしっかりと対策（マスク着用・手洗い）を守っているのがその差ではないかと思えます。当院ではスタッフそれぞれが、しっかりと感染対策を実践したことで新型コロナウイルス感染がゼロの状態が継続されています。患者様に対してしっかりと基準を守って医療を提供することが病院の発展に繋がっていくと思っています。全ての患者様が当院に来て良かったと思われる医療を目指して頑張っていきたいと思えます。本年も宜しくお願い致します。



診療協力部 次長（兼中央検査科 科長）村田 智

新年あけましておめでとうございます。

昨年も活動場所、活動内容に制限がある中、科員一人ひとりが試行錯誤し、よりよい作業療法を提供することを心掛けて業務にあたってきました。

院内フェーズが下がったことにより多少活動の幅は広がりましたが、まだまだ予断を許さない状況ではあると思います。そのような中で当科では、従来通りOT室がどの病棟の患者様、外来患者様にも利用していただけるようになった時のことを考え、リハビリテーションとしてのOT室という場の在り方や、OT室で提供する作業療法について検討を重ねているところです。また、四月には入職者も予定していますので、受け入れ態勢を整えて新たな作業療法科として始動できればと思います。

本年もよろしくお願いいたします。



作業療法科 科長 土屋 貴裕

明けましておめでとうございます。

昨年もコロナ禍での生活でしたが、感染対策をしながら日常に近づく努力を皆でしてきた、あっという間の1年だった印象があります。

外来患者様を支援している地域生活支援科では、デイケアや訪問看護などの支援を中心に、年齢、疾患、生活課題が多様化している患者様のニーズに対応する支援について勉強し、工夫してきたいと思っています。

そして、患者様とのかかわりだけでなく、ご家族や地域の支援機関と協働することで、当科の方針でもある、希望のある、自由でその人らしい人生を支援することにつながると考えます。本年もよろしくお願いいたします。



地域生活支援科 科長 石橋 さおり

あけましておめでとうございます。

昨年は、あるジェネリック医薬品メーカーの睡眠薬混入問題を発端に、医薬品の供給が不安定となり、未だに解消されない事態となっています。当院でも抗精神病薬に始まり、様々な薬が入荷しない等の事態となりましたが、可能な限り患者さんに迷惑がかからないように薬剤科を挙げて薬の確保に努めて参りました。それでも、急にメーカー変更等の対応をするなど、バタバタとした状況となった一年でした。このジェネリック医薬品供給問題は3000品目にわたり、その中の一部は今後1~2年も続くとも言われており頭の痛い問題となっています。改めて医薬品の品質の重要性を思い知らされる事となりました。

今年度は、新型コロナウイルスワクチン接種3回目などもあります。患者さんが薬を安心して服用して頂くことの重要性を考えながら、業務に努めたいと思います。

皆様、今年もよろしくお願いいたします。



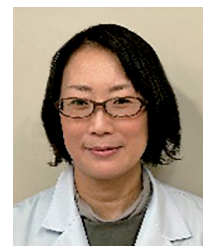
薬剤科 科長 大塚 晃弘

新年あけましておめでとうございます。

いわゆるウィズ・コロナで迎える2回目の新年、そして日本でも感染拡大が始まってから2年が経とうとしています。私たち医療スタッフ・心理職として、そして一人の生活者としても、去年も引き続き様々な変化や制限に向き合う毎日でした。

いわば長期的な災害状況とも言える、この度の感染症ですが、このような事態を‘生き抜く’上で大事なのが「心のレジリエンス」です。レジリエンス(resilience)は直訳すると「回復力」になりますが、ここでは単に‘元に戻る’力のみならず、困難な状況下においてもなお‘成長する’意味合いも含まれているそうです。

コロナ以前から重要視されてきた概念ですが、まだまだ先の見えない日々が続いていくと思われる今日。「レジリエンス」を発揮しながら、この‘長期戦’を過ごしていきたいものです。本年も何卒よろしくお願いいたします。



心理療法科 科長 淵上 奈緒子

明けましておめでとうございます。

昨年も、コロナウイルスに対する感染対策により、完全に以前の体制に戻ることができず、業務内容の一部変更が継続され、皆様方へのサービスに行き届かない面がありました。このまま再拡大なく通常の感染対策の継続で業務を実施できることを願っております。栄養科では、私たちが提供する食事によって、皆様の心身が温まり少しでも不安を取り除くことに貢献が出来るよう、今年も新メニューの提供や行事食など、嗜好を凝らした食事提供や栄養管理ができるように、スタッフ一同邁進いたします。



栄養科 科長 青木 忍

新年あけましておめでとうございます。

昨年のリハ科は私が科長に、そして上菌が統括となり、新しい体制となった年でした。当科の科長交代は13年振りです。ただ、特に上半期はコロナの真っ只中にあり、感染対策に奔走しながらでもありましたので、私自身、体制を引き継ぎ、科を運営するだけで精一杯な一年だったように思います。



今年はこれまで以上に患者様に笑顔と質の高いリハビリを届けたいと思います。一人一人に寄り添い、その人に合ったオーダーメイドの様なリハビリを目指します。また旧体制に縛られることなく、スタッフの意見を聞きながら、どんどん新しいことを取り入れ、チャレンジしていく一年にしたいと思います！本年もどうぞ宜しくお願い致します。

リハビリテーション科 科長 濱田 賢二

昨年は2年前から続いている感染対策の中、感染に関する情報収集や院内での対応確認など、院内外の調整業務などが増え、忙しい毎日でした。担当医、病棟、外来、事務などスタッフ間で情報の共有を図り、患者さんやご家族の方のご協力をいただきながら何とか1年間乗り越えられたと感じています。私たちの科は、当院で治療を受ける前から患者さんやご家族、関係者の方と関わらせていただくことが多く、事前に病院の情報提供をすることやお困りのことなどをお聞きしています。最近は、相談の内容が多様化し、支援する上で知識や技術が求められることがあります。ですが、患者さま、ご家族さまに耳を傾け、院内スタッフとのコミュニケーションを図り、関係者の方と連携していくなど、人と人との関係を構築しながら支援するという基本的なことを忘れずに取り組んでいきたいと思っています。医療相談科は、昨年は2名が入職し、現在8名体制で行っています。教育担当を設けて指導する仕組みを始めて3年が経ちました。試行錯誤しながらのところもありますが、科が経験を積みながら新人の育成を引き続き強化し、当院で安心して治療を受けてもらえるように科内一同、努力していきたいと思っています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



医療相談科 科長 荻生 淳希



令和4年 標語

当院では毎年、全職員から「標語」を募り、最優秀作に選ばれた標語はその年の病院標語として採用されます。今年の受賞作を紹介します。

優秀賞 受賞者 9名 <敬称略>

A2病棟 師長 神山 裕太

患者様の幸せを考え、患者様の回復を信じ、あきらめない医療 【2022年 平川病院 標語 入選作品】

A2病棟 張 雪芬

患者さまへの敬意を持って接する

リハビリテーション科 統括 上園 紗映

共に創る医療、共に彩る未来

東5病棟 黒河内 沙織

今一度、自分の仕事を振り返ってみよう

心理療法科 科長 淵上 奈緒子

人を、未来を育む医療へ

内科 加納 まりあ

丁寧に向き合い、寄り添う医療

～平川病院だからこそ、できること～

南2病棟 主任 丸山 千裕

1人1人が輝く2022年にしたいです！

東3病棟 村井 安里

一つ一つの対応を丁寧に、人としての尊厳を大切に だれもが安心できる医療

リハビリテーション科 田川 勉

あと少し、相手を想い、寄り添う、もう1歩、じっくり診ていこう

奨励賞を受賞いたしました

栄養科 主任 管理栄養士 田中 康之

この度、第10回日本精神科医学会学術大会、一般演題において奨励賞を受賞いたしました。この栄誉ある賞を受賞できたのは、私一人の力ではなく、平川院長先生を始め、ご多忙な業務の中、打ち合わせや会場の準備をし、定時後の貴重なお時間にご都合をつけて予演会という機会を作っていただき、学術大会当日までサポートしていただいた教育委員会の皆様のお陰と実感しております。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

編集後記

まだまだ先が見えないご時世ではありますが、少し明るく・・・みなさん夢ありますか！。夢を持ったらその夢を口に出して周りに伝えてみる。伝えたことによって、引けなくなる。まわりに伝えたことで、「そう言えば〇〇目指していたよね」「〇〇に応募（推薦）しておいたよ」など周囲から思いもよらぬ援助を受け、あれよあれよということもある。いずれにしても夢を持たないと叶わない。この年になると夢と言われてもですが、何か目指してみようか。今年も皆さんの夢が叶う一年となることを祈念して、今年も宜しくお願い致します。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

